

刈高遠城三萬石寬永十七年正月叙從五位下
旗紋華表 幕紋竹雀

忠義 戶沃越中守
為戶澤左亮養子改政條

忠常 左亮亮兵了少輔

長門守

彦五郎

靱負

女子 島津久平郎妻

望月五郎左衛門某

某 望月五郎左衛門

恒隆 五郎左衛門

某 助六 實穗坂次郎衛門某次男也

某 六郎兵衛

緋濟 五郎左衛門

享保六年辛丑八月十日家老下り大老元如
余孫千五十七年致仕確山下号人

望月五郎左衛門某滋野貞主力後下り遠祖望月
三郎重隆頼朝卿ニ仕テ信濃ニ住シ代々海野望
月卜稱シテ信州ノ領主ナリ後武田氏信州ヲ領

スルニ及テ海野望月共ニ武田氏ノ家臣トナリ
望月ハ門葉繁衍ニテ皆武田ノ類家ニ任テ五郎
左衛門初穴山信君ニ任テ相継テ萬千代君ニ
任テ二百石ヲ賜テ萬石^{古帳}慶長十四年己酉威公
ニ駿府ニ奉仕スニ元和年中先手足輕頭トナリ
^{百石ヲ加テテ}三百石トナリニ望月共總兵衛某カ女ヲ娶テ一
男ヲ生ム五郎左衛門恒隆ト云
五郎左衛門恒隆初名興九郎元和年中二百石ヲ
賜テ大番組トナリ父死テ家督ヲ継三百石ヲ賜
テ寛永三^{年大帳}前禄二百石ヲ返納ム後先手足輕頭ト

ナル^{元和九年寛永三年御上}恒隆資質知辨アリ
テ見聞スル所記憶ニテ不忘因テ威公是ヲ奉
用ラレテ寛永年中勘定目付^{或説ニ}ヲ兼ヌ^{小田}
^{左衛門厚知}十二年乙亥用人トナリ鹽谷興三衛
門義宣ト共ニ此役ノ初ナリ後總領番ノ頭ヲ兼
又十六年己卯台命アリテ威公西九總堀ヲ
修造セシム松平志摩守重成總奉行トナリ恒隆
後テ其事ヲ掌シム此時松平伊豆守信綱恒隆カ
才辨アル事ヲ稱ス二十年癸未奉行トナリ二百
石ヲ加ラレ^{正保年中}與力同心ヲ附セラル正保

二年乙酉 台命諸國ノ繪圖ヲ作ラシム此ニ於
テ恒隆及ヒ近藤作之介和隆等 命ヲ蒙テ常陸
ノ村縣山川ノ繪圖ヲ作ル三年丙戌既ニ成テ獻
セラル慶安元年戊子九月二百石ヲ加ラレテ七
百石トナル明曆三年大帳恒隆此職ニ居テ府下ノ諸事
ヲ預リ聞事九十二年諸役人皆恒隆ヲ務事ニ
依ル素ヨリ御領内ノ事ヲ見聞セテヨク省察シ
其諸帳ヲ暗誦シテ事ニ臨テ其是非ヲ折スルニ
聊カ差謬ナク人皆稱ス寛文二年壬寅九月廿五
日役ヲ辞シテ大番頭ノ次ニ列シ延宝元年癸丑

四月八日死ス七十八歳初メ子ナキヲ以テ穂坂
次郎衛門某カ次男助六某ヲ養テ子トス後妾ニ
男ヲ生ム六郎兵衛某萬治三年庚子九月九日父
ニ先テ死ス次ヲ五郎左衛門經濟ト云

水府系箕

和田道也直勝

●直勝

和田道也

某

立大夫不仕死

某

杉山四郎衛門

為七左衛門某養子

女子

為祖父直勝養女

某

七左衛門 仕幕下

正

勝

平助

直勝

金五郎

渡邊伊衛門長敬女

某

母名未詳

利忠 九兵衛 賴元朝臣家老

直高 津田興兵衛 為作左衛門某養子

女子 五百城六左衛門吉恒妻 實孫也

葉 市之進 實津田直高次男也

和田道也 實勝父祖未詳 寬永年中 威公ニ奉仕

ス三百石ヲ賜テ 正保年中 知行割 御咄衆トナリ 慶安年

中江戸御庭同心頭トナル 松式 江戸留守居 剃髮

ノ一、ニ、ヲ勤ム 明曆三年大帳 寬文三年癸卯十月十四

日致仕シ三男正勝ヲ祿百石ヲ賜ヒ隱居料トス

十二年壬子五月四日死ス九十歳百石ヲ返納ム

立男アリ長ハ五大夫某不仕シテ死ス次ハ杉山

四郎衛門某七左衛門某幕下ヲ養子トナル次ハ

平助正勝次ハ九兵衛利忠刑部大輔賴元朝臣ノ

家老トナリ四百石ヲ賜フ次ハ津田興兵衛直高

作左衛門某ヲ養子トナル

平助正勝寬永年中切符ヲ賜テ小姓トナリ正保

年中百石ヲ賜ヒ 正保年中 知行割 慶安年中小納戸役 明曆

三年 大帳 寬文元年辛丑十月廿四日新廊下番トナル

父隱居シテ家督ヲ継三百石ヲ賜テ大番組トナル

リ定宝四年丙辰三月廿八日書院番組頭天和元年辛酉七月廿八日病ニ依テ又大番組トナリ三年癸亥九月十一日罪アリテ改易セラレ即日召返サレシニ為ニ物頭目有等ニ命セラレテ進行ク透ニ他領堺ニ於テ正勝ニ行合フ時ニ正勝追手ヲ見掛テ即時ニ自殺ス渡邊伊衛門長教カ女ヲ娶テ一男ヲ生ム金五郎直勝ト云天和元年辛酉三月八日父ニ先テ死ニ十一歳又妻一男ヲ生ム評未父ノ罪ニ依テ殺害セラレ